

SC-38 やって いて います、 やら なく て いて います

“Darned if you do and darned if you don’t” by Lary Faris

抄訳：薩川俊三

「やって いて います、 やら なく て いて います」という表現がある。「ちえっ」よりも口汚い言葉だ。その表現が使われる例だ。

シングルス・75 ポイントゲームで、61-46 でリードしているブラックが、このフレームの第7ショットを行おうとしていて、イエローがハンマーを持っている。図Aに示すように、7/8 ライン上にイエローディスクがある。ブラックはどんなショットをすべきか？ ブラックは、7/8 ライナー（ライン上のディスクのこと）をカバーすべきか？ それともクリアすべきか？ ブラック側に向けて、少しドリフトがある。

これは、全米トーナメントで私が見たゲームで、ブラックが7/8 ライナーをカバーしようとした。ブラックのカバーは、ドリフトの影響で、少し左に行った。図Bを参照。ライナーの約半分が見えたイエローは、ドリフトを利用して、ハンマーを、ブラックのカバーディスクを回り込ませて、ライナーをダブルにして15得点した。この得点で、イエローがブラックに追いつき、試合に勝って全米チャンピオンになった。

ブラックは、イエロー・ライナーをクリアすべきだったかも知れないが、クリア・ショットがうまくいかず、図Cに示すように、スティック（止まること）することがよくある。そうになると、イエローが、ハンマーで8得点しながら、ブラックディスクをキッチンに入れて、ブラックが逆転する。

ブラックは、イエロー・ライナーをカバーすべきだったか？ それともクリアすべきだったか？ どちらの方法でも、ブラックはトラブルに巻き込まれた可能性がある。私は選択が問題であるとは思わない。ブラックにとっての本当の問題は、ショットの選択ではなく、ショットの精度だ。ブラックがショットをうまくやれば、

どちらの選択でも、良い結果になったはずだ。しかし、うまくやらないと、どちらの選択でも悪い結果となって、ブラックは「やって いて います、 やら なく て いて います」と、つぶやくことになる。

75 ポイント・ダブルスゲームの例だが、フレームゲームにも参考になる。

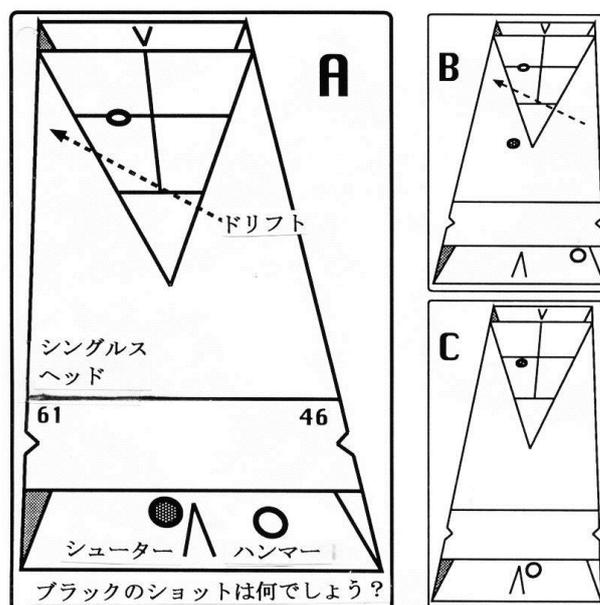


図 A,B,C